



MASTER OF ISLAND CREATION
石垣みらいカレッジ

島の織物を詠む

ことばを紡ぎ、想いを織り上げる

いつの時代も変わることなく織物と共に育てられてきた「大切な人を想う心」。島の暮らしと八重山の織物について石垣市制施行70周年事業「石垣みらいカレッジ」で募集し、寄せられた短歌作品をご紹介します。

シヤベル持ち紅露を山へ振りゆく

島の土から生まれる茶色
豊川奈津子

いすの背持ちトントンと織る母の真似

お腹の中で聞いてた音だね
豊川奈津子

いつよ柄とだれが言うたか芭蕉衣の

女の姿 醜に浮ぶ
たかみね幸

陽をうけてオオゴマダラのキラキラと

透ける蛹に芭蕉布の似て
上原有代

藍染めの揃いのタンジー身にまとい

祭の道へ足取り軽く
宮良タマ

手にタコができるまで巻く糸の玉

鍛えられた手値千金
イエローモンキー

トントンと織りさに向かって布を織る

その大変さをいつの世までも
ミズさち。

八重山の今どき女子のお気に入り

スマホケースもミンサー織りで
小林さゆり

ブーおーんで微笑みながら我を見る

姑の姿今も忘れず
宮良タマ

出番待つ祖母の布布誇らしく

スクミトウンドウミタマスクオサメ
上原有代

菓子折りに黄金の麻繭整然と

祖母の指先アクに染まりて
上原有代

庭に立つ孫の上布の清々さ

祖母の爪先藍に茶に染め
上原有代

藍染めて着せてあげたいあの人に

想いを込めた紺地の着物
アルネのトージ

芋麻畑水やりに来て子かはねる

雨だ雨だと光の中で
豊川奈津子

かにかくにみんさー織こそこころねの

支えになりて白寿となるまで
大濱敏江

吾子たちよ伝統の織り受け継ぎて

世界に広め八重山の織
大濱敏江

いつよ柄我人生に永遠に咲く

今日も楽しや織り機に向ふ
大浜公江

子に着せる祭りの着物を機で織る

いつの世までも元気でいてね
石垣晴子

ひよいと持つミンサーバッグでスーパ―へ

これでわたしも島の女か
犬戸あい

誰の肩にかかるのかしらこの布は

たたく箴音にはずむわが胸
平良佳子



●ベツ甲模様の八重山上布に袖通し
島の女の誇らしさかな 宮良タマ
●伝統と糸とともに織り合わす
なんと素晴らしい八重山上布 イエローモンキー

●なんてだろうこんなに難儀 大変で
めんどろだけど やつてよかった たかまつ

●いつの世も島の織物受け継いで
いろんな人に知ってもらおう 多宇楓香

●はたおれを見つめ続けるトントン
この音だけは忘れられない 雅紅亮

●織り繋ぐいつの世までも末永く
島の宝をわたしも継がん 篠田楓

●きれいだなきいろのおはなかわいいな
マリーゴールドのおりものですね 石堂歩未

●しまのいろしまのおりものしまやさしい
バナナもグアバもおいしそうだな 石堂歩未

●色々な糸きれいだないの世も
続くといいな島の織物 加屋本其珠梨

●できちゃったいろとりどりのMYバッグ
糸や布あわせ私だけの色 そねりん

●とりどりの祖母の布布晴れ晴れと
二番座の梁のかげに揺れつつ 上原有代

●二番座の鴨居に掛るとりどりの
祖母の布布誇らしく揺れ 上原有代

●もろもろの想い手間ひま積み重ね
藍染布の 晴れ一枚 上原有代

●「ナビンドウへの道 藍染の香り立ちこめて
異みながら神々思う 宮良タマ

●一の糸つなぎつなぎて未来へ
技のすこさ島の色香と 平良佳子

●竹かごに山積みにされし麻の糸
心静かに手をふれてみた 宮良タマ

●雲合いの彩なす光変わりゆく
こころ清やけき明日への啓示 色即空

●光陰は矢の如くもいつの世の
心はかけがえのないものとして 色即空

●八年前いつの世までもとはた織った
島への愛で移住しました 光風

●八年前いつの世までもとはた織った
移住の夢で子育てライフ 光風

●福木からしあわせの色糸に染め
心ほっこり黄色の布織る 豊川奈津子

●糸ぞめて眺めておれば美しい
織機にのせて早く織りたい アルネのトージ

●麻布に先人達の想い乗せ
勤しむ我にエール聞こえる 白保の織人

●機音と糸にたわむる麻布に
車を重ねた我楽しみに 白保の織人

●嫁に来て初めて知った八重山上布
離婚したけど織り続けたい わさび

●思いつき織り柄を飛ばし 今日もまた
生まれし布に想いを託す 大浜公江